

はにい

授業を問う(2)

平成25年2月8日

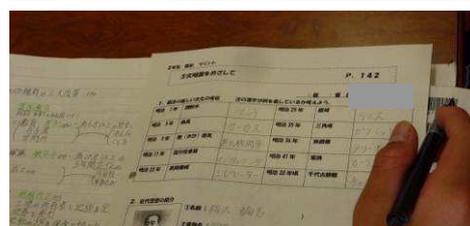
以下は、ある日のある中学校の半日参観メモです(その1)。
前号の指導主事たちのように、隣りの方と対話しながら読んではどうでしょう。
今回は1~2時間目。

1 時間目

○ 社会 2年2組

板書がきれい。子どものノートもきれい。教師の板書が子どものノートに影響している。

教材がユニーク。プリントを見るだけで、その内容に引き込まれてしまう。内容から、教師が日頃から教材研究にとりくみ、教科の内容を教師が楽しんでいるということが伝わる。

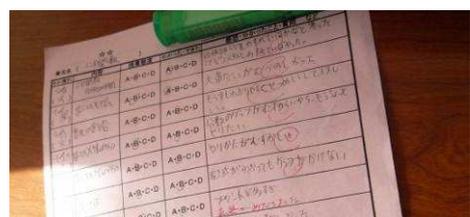


○ 数学 2年6組

板書がきれい。見やすい。式変形やグラフのポイント等がわかりやすく示されている。方眼黒板も用意して、グラフの指導も丁寧。

この場面では、教師が書いた字だけによる教科書のような板書。整然としている。

ふり返りカードが丁寧。毎時間の習慣になっている。子どもが正直な気持ちを具体的に言葉にしている。わかったとか、よくできたとかいったありきたりの言葉ではない。学習の内容について、「変域がわかってでもグラフがかけない」「最初にやった方が圧倒的に簡単だった」等の記述があり、これらは次時の指導に活かせる。



2 時間目

○ 数学 3年3組

三角形の実物を用意。実物のもつ力。

教師も作図し、子どもにもノートに作図させている。作図により図の把握ができる。

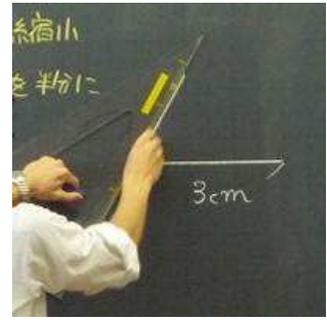


作図したあとの問い。

「形を変えずに半分にするにはどうしたらいいか。面積じゃないよ。大きさが半分。」

この発問の「大きさが半分」の「大きさ」という言い方より「各辺の長さを半分」とした方がわかりやすい。

相似の導入では、相似の意味、対応する辺の長さの比が等しいことや、対応する角度が変わらないことを大切にしたい。



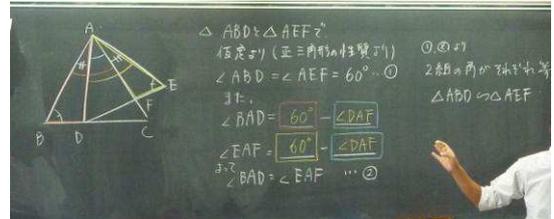
○ 数学 3年6組

大きな図、わかりやすい板書。整然とした説明の流れ。子どもに問いながら、そして子どもの疑問に答えながら、丁寧にやり方を解説していく授業。

「このやり方は絶対に覚えたほうがいい。」

机間指導が丁寧。一人ひとりと十分な対話をしながら、解説していく。

先生！先生！とあちこちから呼ばれて、先生は順番に解説。先生を呼べない子もいる。個人で思考する体験を大切にしつつ、この子たちは、もっと学びあう思考もできる集団ではないか。



かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』とは、
学校が元気になるように・・・

先生の仕事を受けて

学校に携わる大人たちがしていることを受けて

そして、もちろん子どもたちの育ちを受けとる

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp